

アムスルだより

No.42 2000年 3月13日

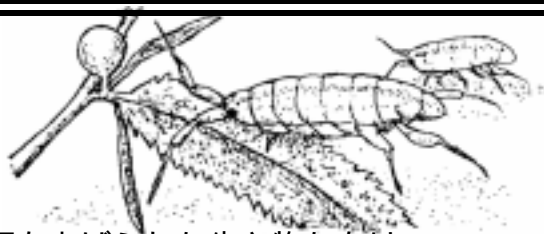
Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

<http://www02.u-page.so-net.ne.jp/pb3/saburo>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



打ち上げられた生き物たちは

どうなる？

今年の冬は、天気の悪い日が多く、海も荒れがちのようです。海が荒れると、たくさんの漂流物が、海岸に打ち上げられます。材木や木クズ、そしてガラスびんやペットボトルや使い捨てライターなど、人間の出したゴミもたくさん流れ着き、その中には、中国や韓国の文字の書かれた外国のものもたくさんあります。

もちろん、生き物もたくさん流れ着きます。以前アムスルだよりに書いたヤシやアダンなど海浜植物の種子(No.28)やエボシガイ(No.30)、海藻やカイメン、魚の死骸など、これまた様々です。去年の冬には、クシバルにウミガメの死骸も打ち上げられていました。

先日、クシバルに行くと、やはりいろいろな生き物が打ち上げられていました。およそ200mの範囲を調べてみると、多いのはエボシガイとホンダワラの仲間の海藻で、エボシガイの付いた木片やびんやブイが49個、直径5cm以上のかたまりになっているホンダワラが53個もありました。打ち上げられたホンダワラが生きている

か死んでいるか、見ただけではよく分からないのですが、空気中では長い時間生きることにはできませんから、やがては死んでしまうでしょうし、エボシガイのほとんどはもうすでに死んでいました。では、死んだ後の死骸は、どうなるのでしょうか。

打ち上げられたホンダワラの一つをそっと持ち上げてみると、小さな生き物がいきおいよくピョンピョンとはね出てきました。捕まえて見てみるとハマトビムシのなかまです。ノミとエビをまぜたような姿をしていて、その名のとおり飛びはねるのが得意なのですが、バッタなどが足を使ってはねるのと違い、このなかまは、尻の部分を腹の下に折り曲げて地面に押しつけ、それを勢いよく伸ばしてジャンプします。さらに、ホンダワラをよく見てみると、もう1種類小さな生き物がいます。庭の石の下などにいるダンゴムシとそっくりな姿で、その名もハマダンゴムシです。ダンゴムシと同じように、いじめられると丸まってしまいます。このハマトビムシとハマダンゴムシが海藻の中で何をしているかというと、実は打ち上げられた海藻を食べているのです。どちらも海藻が大好きらしく、調べてみると直径50cmくらいホンダワラのかたまり(湿重量約400g)には、ハマトビムシが189匹(体長3~14mm)、ハマダンゴムシが493匹(体長2.5~11mm)

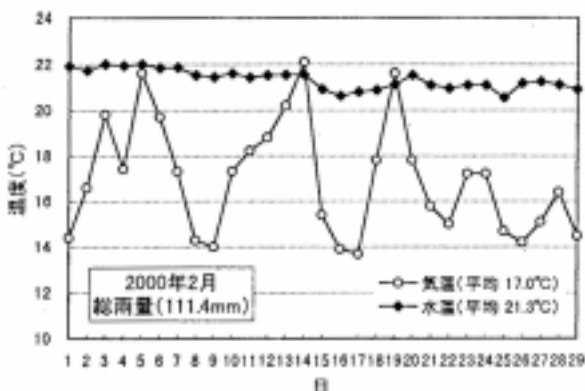
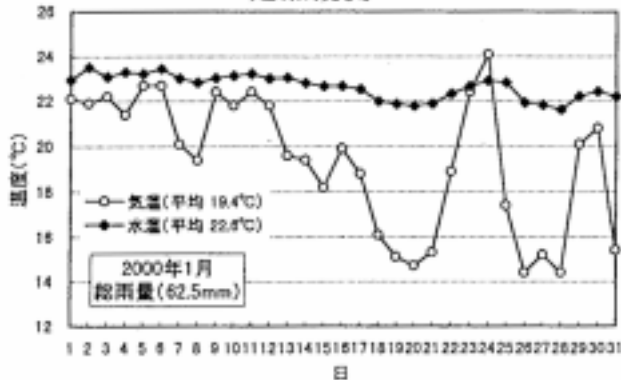
もいました。

夜、もう一度見に行ってみると、今度はたくさんのオカヤドカリたちが、打ち上げられた生き物の死骸に群がっていました。また、昼間はかげに隠れていたハマダンゴムシが、表に出てきてエボシガイを食べていました。

みなさんは、こうした動物の他にも、サギやカラスがよく海岸でエサを食べているのを見たことがあると思います。打ち上げられた生き物たちの死骸は、このようにいろいろな動物に食べられ、ハマトビムシやハマダンゴムシの場合は砂浜に、オカヤドカリの場合は海岸近くの林の中に、そして鳥たちの場合にはもっと遠く、時には山の中に、フンとして出されます。生き物の死骸は、そのままでは他の生き物に利用されにくく、別の動物に食べられ消化されフンとして出されることによって、より利用されやすい栄養の形になります。ですから、ハマトビムシやハマダンゴムシがたくさんいるということは、打ち上げられた生物の死骸がすみやかに利用されやすくなるという意味で重要でしょう。さらに、オカヤドカリや鳥たちの場合には、それが様々な場所に運ばれ、そこにすむいろいろな生き物たちの栄養として使われるようになるという点でも大切な意味をもっています。

海の中で育った生き物たちは、海の栄養のかたまりだといっても良いでしょう。ですから、打ち上げられた生き物たちは、一見ムダ死にのように見えますが、海の栄養を陸に運ぶというとても大切な役割を果たしているのです。そして、それは死骸を食べる動物たちのはたらきにかかっているのです。

定点観測



阿嘉島の海より

-今年のサンゴの産卵-

何人かの気の早い人から、「今年のサンゴの産卵はいつ見られますか？」という問い合わせが研究所に来ています。サンゴの産卵も、今や観光資源の一つとなっているようです。毎年5、6月に産卵するミドリイシ属サンゴの体内には、すでに小さな卵ができていますが、その卵成熟はこれからの水温上昇によって左右されるので、産卵日について今はまだ正確にはお答えできません。しかし、過去の産卵パターンから推測すると、一部のサンゴは5月18日の満月から6~7日後に産卵し、多くは6月17日の満月の頃に産卵するものと予想されます。詳しい情報は次号でお伝えしたいと思いますので、しばらくお待ち下さい。